

弘大図書館POPコンテスト

弘前大学附属図書館(郡千寿子館長)による第3回POPコンテストの表彰式が15日、同図書館2階で開かれた。今回、26点の作品が寄せら

れ、審査の結果、「りんごをアップルとは呼ばせない」の本を題材にした人文学部4年の藤村光さん作のPOPが大賞に選ばれた。(山本恵子)

読書力向上に一役



第3回POPコンテストの表彰を受けた入賞者ら(前列中央が藤村さん)

コンテストでは、同館所蔵の本について興味や関心を引くようなイラストや紹介文でPRするPOPを作成。図書館の利用促進と読書力の向上を目的に実施しており、運送業や不動産業などを手掛けるサンライズ産業(弘前市、工藤博文代表取締役)が協賛した。応募作品は館内に掲示され、学生や職員ら図書館利用者による投票で審査を行った。その結果、大賞1人、優秀賞1人、佳作3人、サンライズ産業賞1人

同日の表彰式では、郡館長と工藤代表取締役が受賞者に表彰状を手渡した。受賞者は1人ずつ、POPに込めた思いなどを語った。藤村さんは「タイトに引かれて読んだ本だった。まさか、大賞に選ばれるとは」と示され、学生や職員らについては「目を引くように背景を黒くシンのプルに仕上げ、リンゴ産業のこれからの考え

の受賞が決まった。同日の表彰式では、郡館長と工藤代表取締役が受賞者に表彰状を手渡した。受賞者は1人ずつ、POPに込めた思いなどを語った。藤村さんは「タイトに引かれて読んだ本だった。まさか、大賞に選ばれるとは」と示され、学生や職員らについては「目を引くように背景を黒くシンのプルに仕上げ、リンゴ産業のこれからの考え

界と戦っていくのか」といふ部分も注目して読んでほしいとの意味も込めたと解説した。郡館長は「本を読む人は減っているが、活字を体感する行為は脳の活性化に大きな働きがある。POPも読書力の向上につながっている」とあいさつ。

藤村さん(学人部)大賞



大賞に輝いた藤村さん考案のPOP(下)

弘大OBの工藤代表取締役は「在学当時はずいぶん本を読ませてもらった。選択の連続である人生の場面で書物から学んだことが参考になる機会が多いと思う」と呼び掛けた。

大賞以外の受賞者は次の通り。(敬称略)
▽優秀賞Ⅱ 澤田悠祐(人文学部4年)▽佳作Ⅱ 高森勇次(人文学部3年) 田露(教育学部1年) 色摩優希(教育学部2年)▽サンライズ産業賞Ⅱ 小池亜摘(教育学部1年)

※この記事は陸奥新報社提供です。
この画像は、当該ページに限って陸奥新報の記事利用を承諾したものです。
転載ならびにこのページへのリンクは固くお断りします。

[問い合わせ先]
弘前大学附属図書館 jm3163@hirosaki-u.ac.jp